

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300180		
法人名	有限会社 アルコップ		
事業所名	ナーシングケアセンター 緑寿の園 さくら木(GH)		
所在地	福島県郡山市桜木一丁目5番4号		
自己評価作成日	平成27年12月9日	評価結果市町村受理日	平成28年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀内15番地の3		
訪問調査日	平成28年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に小規模多機能型居宅介護事業所とサービス付き高齢者向け住宅を併設している。近隣は、病院、ショッピングセンター、学校などがある。日々の入居者様へのケアでは希望や要望に瞬時に応えられる体制になっている。また、全入居者様が綿パンツでオムツ(ゼロ)である。今があるのも、協力医療機関との24時間の連携と柔軟性のある往診、そして何より、職員間の風通しも良く、意見交換をしやすいことが、職員一人一人の人と向き合う姿勢の意識改革、互いに尊重することでの相乗効果になっている。それらが入居者様の笑顔という大輪の花が咲くことに繋がっている。ここ数年、入居者様の入院や契約終了など異動はない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地区のいきいきサロン、お祭り等に事業所のホールや駐車場を開放しており、入居者も参加するなど地域の方々との交流の輪が広がっている。
 2. オムツを使わない生活を目標にして、トイレでの自立排泄支援に取り組んでいる。入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、入居者の表情や動作からさり気なく声をかけをし、トイレへの誘導を行い、自立した排泄を継続している。
 3. 法人理念「旬のサービス」を基に、利用者の今(旬)の思いを大切に、それらを実現するためのサービスに日々取り組んでいる。また、入居者の言葉をそのまま記録に残しその時の思いを職員間で共有し入居者本位の支援に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週1回の全体朝礼、毎月のユニット会議の際に法人理念・介護理念・方針(五のテスト)を唱和している。日常においても全職員が意識をもって、入居者主体で介護技術に取り組んでいる。	法人理念に基づき地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り共有しながら入居者の今の思い(旬)を大切に支援をしている。また職員の行動指針となる介護方針(五つのテスト)を作り振り返りに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事の参加、市内(近隣)の行事の参加、散歩などを通し地域と交流している。行事を行う際は町内の回覧板を利用し地域の方々に案内状を出している。また、いきいきサロンの会場として場所を開放し、一緒に行事を行っている。	いきいきサロンや、町内のお祭り等に施設を開放し、入居者も一緒に参加することで、地域の方に認められ、協力を得られるようになっている。散歩の時には声を掛けられたり、野菜をいただく等地域との交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事に地域の方にも参加してもらったり、定期的に近隣の学校の先生、生徒、町内会の方達が入居者と接する場を設けている。また、いきいきサロンで認知症予防についての体操や話しをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議の際、避難訓練などに参加していただき、意見を実践に反映している。また、意見をもとにチームでも話し合い新たな取り組みに努めている。	町内会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、中学校長、入居者等が委員となり、運営状況、看取りや介護保険改正内容、避難訓練等事業所の課題も含め話し合っている。地域の情報など運営面に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員が定期的に事業所へ来ている。行事がある際は日程を伝え参加して頂いたり、現場を見て頂きながら、連絡を取り、サービス内容を伝え余暇活動等に一緒に参加して頂いたりして	行政の担当とは入居者のサービス変更時や生活保護受給などで連携を取っている。また介護相談員には定期訪問以外に行事案内をすることで入居者との懇談、事業理解の機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部勉強会を行い、身体拘束についての理解し意識を高めることで、受容する姿勢に着眼点をのいたケアに日々、努めている。	身体拘束についてはユニット会議で具体的な事例検討を行い内容の理解に努めている。また入居者に待っていただくときは理由を伝え、言葉による抑制にならないよう留意している。玄関は施錠しないで見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部勉強会を行い、理解、意識を高めている。また、もし発見した際は、上司に報告できるチームの雰囲気である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部勉強会を行い、理解できない場合は職員同士で声をかけ合ったり上司に助言を頂いている。また、日常の中で権利擁護に対する情報がある時は、共有したり、回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容について十分な納得が得られるまで説明し同意を得ている。契約が終了になった場合も十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を行ったり、面会時や担当職員が家族と連絡を取り、意見や要望を聞き入れている。入居者には、その都度、声を聞き、記録に残している。ユニット会議で話し合い反映させている。	家族会(年2回)や訪問時等に出た要望については、ユニット会議で話し合い運営に活かしている。入居者の声を活かし、ホワイトボードに大きくお風呂時間や食事メニューを書くなど運営に反映する取組を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議にて職員の意見を確認している。また、個人面談を実施し個人の意見についても確認し反映できるように努めている。	個人面談(年2回)で要望を聞くとともに勤務日や年休も職員間で話し合い、調整している。また、月1回「運営検討会」が行われ意見や要望を聞く機会を設け運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得した場合の手当ての支給、年間目標を定め知識の向上に努めている。又、一人一人が目標を設定して取り組んでいる。人事考課をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福島県GH協議会に加入しており経験年数・個人の能力に合わせ外部研修に積極的に参加している。日々の中で、課題を共有し、気付きを通して、内部トレーニングをしている。また、年間で定期的に内部勉強会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県GH協議会に加入しており、管理者会議や外部研修で他事業者の職員と交流を図る機会があり、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から入居者様の声を傾聴しコミュニケーションを取っている。ユニット会議でも話し合い入居者様が安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡等で、職員より生活状況などを伝え、家族様と話し合える様にしている。家族様の声は職員で共有し対応できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのか、旬のサービスを提供できるように努めている。他のサービスが必要な時は、関係機関と連携を取り、その人らしい生活が送れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で教えられる事も多くあり、入居者様と、調理、物作りなどの共同作業をしたり必要物品の買い物に出掛けたりしながら一緒に生活している。人同士の関係を築きケアされるケアを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡、毎月お便りなどで生活状況などを報告している。事業所行事への参加も促し入居者様と家族様が一緒に過ごせ絆が深まる様努めている。又、家族会などで意見交換ができる様にも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が持参している思い出の品や家具を居室に設置している。遠方の方には、新聞通信などにて最近の様子が分かる様にしたり、入居者様が電話で会話したりしている。馴染みのあるスーパーなどに買い物へ行ったり実家や昔の職場周辺をドライブしたりしている。	スーパーや実家など馴染みの場所へのドライブや毎月家族にお便りを出すなど関係継続に努めている。また入居者の友人からの電話を取り次ぐ際には、丁寧に対応し、電話による会話が続くよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が談話したり、一緒になつかしの歌や昔の遊びなど行って楽しまれている。入居者様同士コミュニケーションを図って体調不良者や高齢の入居様を気遣って助け合ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、家族の同意のもと入居者様に会いに行き出会えた縁を大切にしている。家族に退居後の様子を聞く等、相談可能な体制を整えている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様や家族の要望を受け入れ、日々の生活の中で出来るだけ取り入れる様にしている。困難な時は会議などで話し合い、望む生活が送れる様にしている。	入居者の希望する生活が送れるように本人や家族の意向を把握し、困難な入居者にはセンター方式を使い表情やしぐさから思いを把握しサービス担当者会議で本人本位に検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査や生い立ち、出身地、生活歴などを伺い、趣味嗜好を考慮した上で出来るだけ今までと同じような生活が出来るように努めている。日々の会話の中や家族様の話で情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の送りなどで心身状態などを話し合い、共有できるようにしている。何か変化があった際はその都度勤務している職員同士意見交換しながら対応し他職員に申し送りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が日々の生活の経過観察し計画作成担当者、管理者、居室担当者、本人と定期的に行っている。状態変化があった時などにも行っている。状態の変化があった時は家族様にもその都度報告している。	本人や家族の意向、モニタリング結果、心身の情報、認知症チェック等を基にサービス担当者会議で検討し現状に即した介護計画を作成している。介護記録もOJTを行い統一した記載がなされ、モニタリングに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化の様子や訴えなど個別に記録に残し各勤務ごとに申し送りし情報共有している。会議等で個別ケアについて話し合い日々のケアに取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせ、その他のサービスの活用について情報提供している。併設してある他サービス機関の説明は契約時や面会時、家族会等で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し地域との交流を図っている。当事業所の行事にも地域の方が参加できるように回覧板と日々の挨拶で発信している。馴染みの床屋に行く、近所に買い物に行くなど本人様の希望に応じ出掛けられる環境が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療、訪問看護に来てもらっている。急変時には往診の体制が整っている。他病院へ受診の時は、経過や結果をかかりつけ医へ連絡して状況が途切れないように努めている。	家族の協力で従来のかかりつけ医に継続受診している入居者もいるが、大半は24時間対応可能な協力医の往診を受けている。専門医の受診や歯科医の往診、協力医院の訪問看護師による健康管理も行われるなど適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護に来てもらいその都度何かあれば報告しアドバイスをもらい対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際はホームでの様子、状態を報告している。入院中にも入居者様が安心してできるように定期的に職員が面会に行き、その時に病院側や家族様から状態の報告を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から話し合い、本人様が安心、安楽できるように事業所でできる事をチームでしっかり話し合い、支援をできる様に努めている。家族様には状態変化がある時はその都度報告し家族様の協力、理解をえている。	入居の際「重度化の介護・看取り指針」により看取り介護について説明が行われ同意を得ている。また、状況が変化した場合、協力医から説明が行われ看取りの同意があれば、本人に合った看取り介護プランを作成し、看取りを行っている。職員研修を積みながら家族との時間を大切に支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、職員が回覧できるようになっている。緊急連絡の手順は職員のIDカードにいつも入っており、すぐに対応できるようになっている。急変時、事故等のあった時の対応についての勉強会も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内における避難訓練を実施しているほか、地域とも災害時における訓練を行ったり、情報支援を行ったりしている。運営推進会議で避難訓練に参加してもらい意見をもらっている。	消防署立会の避難訓練を含め毎月併設事業所と合同の訓練が行われている。夜間、火災、水害、地震等想定した訓練が実施され、運営推進会議委員の見学も入れるなど地域の協力を得る取り組みも行っている。米、水等の備蓄や自家発電なども備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格を把握し、声かけの仕方も一人一人その人にあった声かけや個別ケアで対応をしている。その人の出来ることを尊重している。	申し送りや会議で入居者の状況や性格を確認し、声の大きさや言葉遣いなど本人が不快感を感じないようにしている。また言葉が出にくい入居者は部屋でゆっくり傾聴しながら訴えを聞き取るよう努め、できる事は手を出さず見守りで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を提供する前や買い物へ行った時などに自分で好きな物を選ぶように声かけしている。日常生活での声かけも選択肢ができる声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペース合わせ本人様の希望や出来ることを理解し日常生活のケアに取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前などに一緒に好きな服を選び、身だしなみができるように支援している。職員や家族様と外出し自分で服を選び購入している。昔から化粧が好きだった方には朝に自分で出来る範囲でしている。定期的に散髪の声かけをし散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	誕生日にはケーキ作りや、季節に応じおはぎ作りをしている。入居者様のテーブルの前で一緒にお好み焼き、焼きそばを作り食を目で楽しむ工夫をしている。	入居者は皮むきや下膳、食器拭きなど出来る範囲で参加する他、餃子や焼きそば、おやつを食卓の上で一緒に作るなど楽しむ雰囲気づくりも行っている。また、外食やお茶などで出かけることも多く、職員も一緒に楽しむ環境づくりに力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ食べやすいように提供している。毎食、食事量と水分量を確認している。食事摂取量が少ない時や嫌いな物がある時は品をかえて提供したりしている。水分量が少ない時は、好きな飲み物を傾聴し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔内の状態に応じて一部介助もしている。一日に一度、夕食後に義歯を使用している入居者様は、義歯を預かりポリドントにて消毒行って口腔内、義歯の清潔保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから綿パンツ、パット使用に変更、厚いパットから薄いパットに変更している。時間をみはからい声かけ誘導を行っている。トイレで排泄できるよう取り組んでいる。	トイレで排泄すること、オムツを使わないケアを行うことを目標に排泄パターンや本人の状況に合わせたトイレ誘導が行なわれている。夜間もパットのみで布パンツで対応している。食事やヨーグルト、体操など下剤に頼らない自然排泄にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	TV体操、歩行運動、散歩等を実施し、毎朝には本人様の希望に合わせ牛乳やヤクルトを提供している。朝食後にはヨーグルトを提供し乳製品をとるようにしている。排便-3日目以降は便秘予防茶提供し自然排便につながるようしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に自分の好きな服を選び入浴後に着替えている。好きなバスクリンを選んでもらい提供している。入浴中、歌を唄ったり、湯船にゆっくり入りたいとの声があればのぼせない程度にできるだけ希望に答え対応している。	入浴は1日おきを原則としているが、入居者の希望があれば毎日の入浴も対応している。水虫の入居者は入浴しない日には、足浴対応をしている。また希望する入浴剤を選び、ゆっくり楽しく入浴できる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週に一度、寝具のカバーやシーツ等を交換し洗濯を行っている。寝具が汚れた時は、その都度交換を行っている。毎朝、起床後に寝具を乱れを整えている。眠気がみられている時は、本人の思いを傾聴した上で、臥床の声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は職員間で情報共有しない服後の経過や変化を医師、看護師、家族様に報告している。内服、点眼時も一人一人に合わせ介助等している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し本人様の出来る範囲でテーブル拭き、お茶入れ、行事でのケーキ作りやおやつ作り、洗濯物たたみや食器拭きなどを行ってもらっている。裁縫が好きな方には、バックやぞうきんを縫ってもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつを持って、せせらぎこみちや、ドライブに出かける。ホームの買い物や個人の買い物と一緒に出かけている。外食をしたり、地域の祝い事やお祭りに参加している。家族様となじみの床屋に出掛けている。	自分のお金で買い物をしたい時や生活用品の購入でお店に出かけたり、近隣公園への散歩や女子会(カラオケ)へ出かけるなど外出機会は多い。また、花見や紅葉狩り、初詣、外食等全員で外出する事も多い。さらに家族の協力で、外泊や外食なども行われ気分転換に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は会社で管理し、その都度お金を渡し、買い物を支援し、本人が支払い、おつりを受け取る事を見守っている。お金がないのかと心配する入居者様には家族様から預かっていることなど伝え安心してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使える環境になっている。年賀状もだしている。上手に書けない時は職員と一緒に書くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔感を保ち、買い物の時に花を購入したり、地域の方から花を頂きホールや廊下に季節の花を飾っている。ペランダにも季節の花などを植え鑑賞できるようにしている。季節感のある作品を一緒につくり展示している。	共用空間は床暖房、エアコン、加湿器等を設置し、快適に過ごせるようになっている。壁には入居者と一緒に作ったカレンダーや写真付きの貼り絵が飾られ季節感が感じられるものとなっている。日中はリビングで過ごすことが多く、塗り絵やはり絵、習字、カラオケ等を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを3つに分け、それぞれが自由に移動し談話できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	家具などは新しいものではなく、自宅にいたときに使用し使い慣れているものを居室で使用している。家族様の面会時に撮った写真を飾る工夫や、仏壇などが置かれたりしている。仏壇には花や季節に応じおはぎ、果物を供えられるように配慮している。本人様が作成した作品も飾っている。	居室はベット、クロゼットが備えられ、入居者が椅子や収納ケース、仏壇、家族写真等馴染みの物を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫されている。毎朝、入居者と一緒に掃き掃除を行い、職員がモップで拭くなど環境整備にも努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち上がりやすいように介護用テーブルを設置している。歩行しやすい様に段差がなく、廊下やトイレ、浴室等には手すりがあり、移動や車いすへ移乗に支障がないようにしている。		